

進捗状況の概要 【1ページ以内】

○交流プログラムの実施状況

本事業は、4つの交流プログラム（文化交流プログラム、基礎科学プログラム、先端科学技術プログラム、先端医療プログラム）を柱に、ロシアの極東からカザン、モスクワ、サンクトペテルブルクまでの10海外連携機関に跨り、横断的に学生及び研究者の交流を進めようとするものである。

平成29年度は、スタートアップ・トライアル期間として位置付け、海外連携機関と綿密に連絡・調整を行い、多層的な4つの単位・学位取得型交流プログラムの構築を完了した。4つの交流プログラムのうち、学士課程を対象とする文化交流プログラムにおいては、将来的な長期留学への呼び水とするため、先行して派遣・受入を行い、先端科学技術プログラム（環境科学分野）においても、派遣を行った。

平成30年度から、全ての交流プログラムにおいて本格的な学生の派遣・受入を行った。その結果、下表のとおり、交流学生数について派遣・受入ともに計画を遙かに上回る実績を得ることができた。特に、派遣が多いことについては、平成30年度外部評価委員会において高い評価を受けた。

これらの学生交流を起点として、物理学、化学、医学、生命科学分野での交流が深まり、大学院生や研究者の相互派遣に繋がるジョイント・シンポジウムや海外連携機関からエキスパートを招聘した特別講義を定期開催するなど、研究者交流へと進化した。その結果、教員間の研究課題のマッチングが促され、共同研究へと発展する事例が見られた。

○質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

本事業の学内運営体制を確立するため、学生交流プログラムを実施するためのプログラム運営委員会、基礎科学・先端科学プログラム実施小委員会、先制医療プログラム実施小委員会、文化交流プログラム実施小委員会、質保証小委員会等を設置し、定期開催した。加えて、本学が行う自己点検・評価の客観性及び妥当性を担保するため、外部有識者からなる外部評価委員会を設置し、年1回開催した。

また、平成29年度に本事業で養成する人材像が備えるべき5つの能力（異文化受容性、現状認識力、俯瞰的思考力、創造（想像）力、実践力）を測定するためのルーブリックを作成した。平成30年度から交流プログラム参加学生を対象にルーブリックの運用を開始し、事前事後のアンケートとして活用している。

○外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

海外連携機関の拠点校として位置付けているカザン連邦大学との連携強化を図るため、平成30年9月にカザン連邦大学に「金沢大学カザンオフィス」を設置、10月に学生交流促進のための覚書を締結、平成31年2月には本学に「カザン連邦大学金沢オフィス」を設置する等、相互交流の基盤を整備した。

また、本学のSDGs、ジオパーク、ユネスコエコパーク（生物圏保護区）に関する教育研究活動を推進するため、白山市及びNPO白山しらみね自然学校の支援を得て、新たな教育研究拠点として「金沢大学国際機構SDGsジオ・エコパーク研究センター」及び「金沢大学白山白峰セミナーハウス」を開設した。これらの施設は、今後、文化交流プログラムでの受入のための拠点として活用する予定である。

○事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

本プログラム専用Webサイトを設置し、プログラム概要や海外連携機関、留学情報等を掲載し、全世界に公開している。また、プログラムに参加した学生が留学先から写真や記事を自由に投稿できる「Activity Report」を設け、日露学生による計79件の生の声を届けている（2019年3月末日現在）。

【本事業における中間評価までの交流学生数の計画と実績】

| 2017年度 | | | | 2018年度 | | | |
|--------|-----|-----|----|--------|-----|-----|-----|
| 派遣 | | 受入 | | 派遣 | | 受入 | |
| 計画※ | 実績 | 計画※ | 実績 | 計画※ | 実績 | 計画※ | 実績 |
| 20人 | 38人 | 5人 | 6人 | 35人 | 65人 | 17人 | 37人 |

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ以内】

○「石川～ロシア大学交流コンソーシアム」の設立

地域間の「学術・文化・経済」交流の基盤とするため、「石川～ロシア大学交流コンソーシアム」の設立に向けての検討・調整を進め、本学が大学コンソーシアム石川加盟大学の幹事校として、カザン連邦大学がロシア8大学の幹事校として、両者が覚書を締結することで合意し、2019年7月に設立する予定である。

○基礎科学プログラムにおけるダブル・ディグリー・プログラム（DDP）の開始

2018年5月、本学自然科学研究科数物科学専攻博士前期課程とカザン連邦大学物理学研究所との間でDDPに関する協定を締結した。2018年10月、この協定に従い、カザン連邦大学の学生1名が入学し、2019年4月から本学で修学予定である。

○タタルスタン大統領来学

2018年10月、本事業の採択と本学とカザン連邦大学との25年以上の連携を受け、タタルスタン共和国大統領が石川県との交流に興味を持ち、同大統領及びカザン連邦大学長ほか34名の視察団が本学を来訪し、本学とカザン連邦大学との「学生交流推進の加速に関する覚書」調印式を実施した。同大統領は同日には石川県知事も訪問した。今後の両地域間での「学術・文化・経済」交流に繋げるため、石川県知事のタタルスタン共和国訪問も予定されている。

○石川県国際交流協会IJSPにロシア学生15名派遣

タタルスタン共和国大統領来日の成果の一つとして、石川県国際交流協会が提供するIJSP（石川ジャパンーズ・スタディーズ・プログラム）に、カザン連邦大学からのロシア学生15名の派遣が決定したことが挙げられる（2019年11月予定）。IJSPとは、日本語学習者が石川県でホームステイをしながら、日本語と日本文化を学ぶことができるプログラムで、自治体や地域住民との交流も促進する。

○ルーブリック（特別に開発した評価方法）による評価の実施

交流プログラムに参加した派遣・受入学生を対象に、ルーブリックによる評価を実施し、より明確な学習達成度の可視化を行った。その結果、日露双方の学生ともに、本事業で育成する人材が備えるべき5つの能力に向上が見られ、学生教育の観点で大きな成果が確認された。

○ユネスコエコパーク体験による日露地域交流

文化交流プログラムでは、2018年度から、文化・自然を学ぶ場として、両国の生物圏保存地域（BR；Biosphere Reserves：ユネスコエコパーク）を選択し、派遣・受入ともに独自の国際教育プログラムをスタートさせた。

○インターンシップ受入先の大幅な新規開拓

2018年度の先端科学技術プログラムにおける我が国でのインターンシップ実施は1企業1名に止まったが、2019年度のさらなる受入先拡充を目指して連携する企業と交渉し、11企業から35名の学生受入の許諾を得ることに成功した。本学学生とペアでの派遣を強調したことが奏功し、受入先企業を開拓できた。本学学生とロシア人学生のペアで派遣することにより、大学とは全く異なる企業現場で両者のコミュニケーションが一層促進され、大きな交流効果が期待できる。また、ロシアへの本学学生派遣に関しても、カザン連邦大学との交渉の結果、2019年度から、米フォードと露ソラーズの合弁会社である「フォード・ソラーズ」（自動車メーカー）のインターンシップ受入開始が決定した。

○2019年度国費留学生優先配置プログラムによる長期留学の拡大

これまでの学生交流の成果が結実し、今般採択となった、基礎科学プログラム及び先制医療プログラムを基盤とする国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム（2プログラム）により、単位取得型の短期留学に加え、学位取得型を目指す長期留学も拡大する。

○クラスノヤルスク医科大学内に本学海外教育研究拠点を設置

神経科学研究分野における20年弱にわたる研究交流の結果、クラスノヤルスク医科大学内に「Krasnoyarsk-Kanazawa Research Station - Social Brain Lab」を設置し、同研究室を拠点としてLaboratory for Social Brain Studiesが始動した。ここでは、本学大学院で学位を取得した者が、現地の教員（本学コラボラティブ・プロフェッサー）や若手研究者・大学院生とともに研究するほか、大学院生への研究指導・医学部学生への講義を行っている。